

京大泌尿器科における 最近10年間（1950～1959）の臨床統計

京都大学医学部泌尿器科教室（主任 稲田 務教授）

教	授	稲	田	務
講	師	酒	徳	治
講	師	日	野	豪
助	手	片	村	永
助	手	玉	置	明
助	手	沢	西	謙
大学院学生		本	郷	美
大学院学生		久	世	益

Clinical Statistics during the Period of Last Ten Years, from 1950 through 1959, in the Department of Urology of the Kyoto University Hospital

Tsutomu INADA, Jisaburo SAKATOKU, Takeshi HINO, Eizyu KATAMURA,
Hazimu TAMAKI, Haruya HONGO, Kenji SAWANISHI, and Masuji KUZE

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University
(Director : Prof. T. Inada)*

Presentations of number of patients, diseases, operations and clinical examinations during the period of last 10 years, from 1950 through 1959, in the Department of Urology of the Kyoto University Hospital has been made in an occasion of Tenth-Year Anniversary of Professor Tsutomu Inada's Inauguration.

In the above mentioned period, numbers of total out-patients, in-patients and operations were 19,222, 2,572 and 3,348, respectively. In general, there is tendency of increase in the scope of diseases and in the number of operation among of which urolithiasis was strikingly increased.

On the contrary, venereal diseases were remarkably diminished and urogenital tuberculosis was relatively decreased.

緒 言

1950年（昭和25年）7月に稲田務先生が我々の京都大学医学部泌尿器科教室主任教授として御就任になつて以来満10年が経過し、本1960年（昭和35年）には門下生一同によつて稲田教授御就任10周年記念事業が計画された。稲田教授御就任以降の学術研究業績は記念業績論文目録

として整理編集されて、その発表論文数は実に390件の多数を算した。一方稲田教授を中心とする教室の臨床的な方面の歩みをふりかえる意味で1950年（昭和25年）より1959年（昭和34年）にいたる最近10年間の臨床統計を集計してここに発表する。なお1955年（昭和30年）より1958年（昭和33年）までの4年間の臨床統計は年各

度毎に既に泌尿器科紀要に掲載したものを引用した（酒徳記）

る10年間の京大泌尿器科外来患者総数は19,222名で、性別は男子13,873名（72.2%）、女子5,349名（27.8%）となっている。各年度における患者数は表1のごとく1950年1,146名より漸次増加し、1959年には2,554

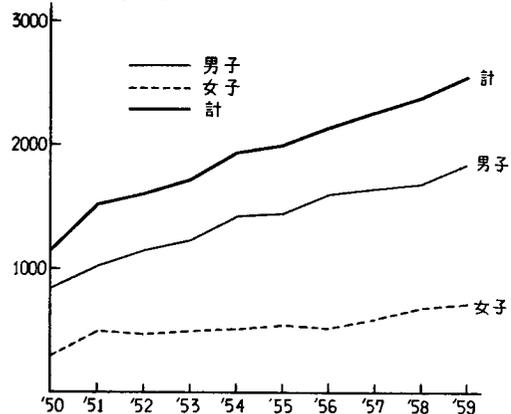
外来患者総数

1950年（昭和25年）より1959年（昭和34年）にいた

表1 外来患者総数

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
男子	847	1,025	1,128	1,215	1,419	1,448	1,608	1,658	1,693	1,832	13,873
女子	299	493	477	499	514	542	524	594	685	722	5,349
計	1,146	1,518	1,605	1,714	1,933	1,990	2,132	2,252	2,378	2,554	19,222

図1 外来患者総数



名にたつた。これを年度別に図示すると図1の如くなる。

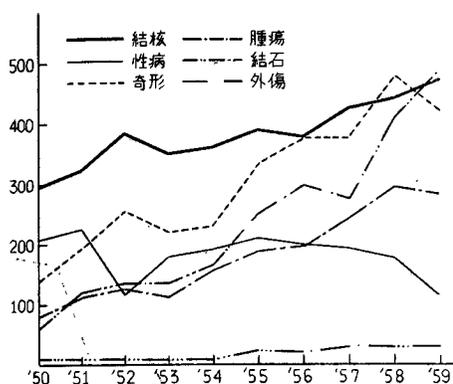
外来患者の疾患を一応性病関係、泌尿器結核、尿路結石、腫瘍、奇形・发育異常、外傷および異物、その他の6群に分類すると、その各々の疾患数ならびに患者数は表2および図2に示すごとくであつて、疾患数においても患者数においても泌尿器結核症 3,795例、2,919名が最高であつて第2位は奇形・发育異常の3,004例、2,834名、第3位は尿路結石症の2,322例、2,151名、第4位は性病関係の1,804例、1,742名、第5位は腫瘍の1,782例、1,701名となっている。次にこれらの疾患群別に考察を加える。

表2 主要疾患総数

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
性病関係	208 (179)	227 (223)	117 (113)	178 (169)	189 (179)	209 (209)	198 (195)	192 (191)	176 (174)	110 (110)	1,804 (1,742)
結核	294 (221)	323 (271)	383 (287)	348 (276)	357 (269)	386 (353)	375 (281)	421 (325)	439 (313)	469 (323)	3,795 (2,919)
結石	60 (51)	119 (109)	132 (126)	135 (130)	166 (143)	249 (235)	296 (273)	271 (261)	407 (382)	487 (451)	2,322 (2,151)
腫瘍	80 (77)	113 (110)	125 (118)	113 (101)	153 (150)	187 (180)	196 (187)	239 (228)	295 (278)	281 (276)	1,782 (1,701)
奇形・发育異常	139 (127)	193 (192)	253 (241)	218 (209)	228 (200)	332 (324)	374 (345)	374 (348)	474 (442)	419 (406)	3,004 (2,834)
外傷・異物	10 (10)	9 (9)	11 (11)	7 (7)	8 (8)	22 (22)	20 (18)	28 (28)	27 (27)	28 (28)	170 (168)

上段は疾患数， 下段（ ）内は患者数

図2 主要疾患総数



外来性病関係

性病およびこれと関係の深い淋後性尿道炎，非淋性尿道炎等を表3に示す。即ちこの10年間の当該患者数は1,742名，疾患数は1,804例となる。

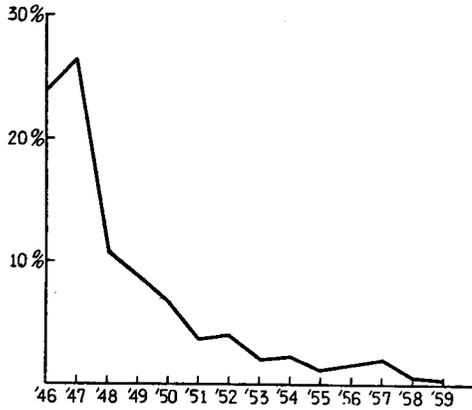
表3 外来性病関係

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
急性尿道淋	71	69	35	31	44	23	32	51	15	11	382
慢性尿道淋	49		29	14	3	1	5				101
急性淋菌性副睪丸炎	4		2	1	2		1				10
慢性淋菌性副睪丸炎		7	2				2	1	2	2	16
急性淋菌性前立腺炎	1										1
慢性淋菌性前立腺炎				3				1			4
淋菌性膀胱炎								1			1
淋菌性頸管炎	1						7	4			12
淋菌性外陰炎	1		1								2
淋菌性精囊炎			1								1
淋後性尿道狭窄	40	98	3	49	19	60	31	38	42	37	417
淋後性尿道狭窄術後						2	2				4
淋後性尿道狭窄の疑										6	6
軟性下疳	8	4	6	9	22	16	10	10		2	87
混合下疳						1					1
硬性下疳	7		1				1		1	1	11
潜伏梅毒	2	4	6	5	10	7	7	4	5	5	55
非淋性および淋後尿道炎	23	45	24	69	89	99	100	82	111	44	686
その他	1		4							2	7
計	208	227	117	178	189	209	198	192	176	110	1,804

かつて泌尿器科領域における性病，なかんづく淋疾の占める地位は極めて重要なものであった。教室の新谷の報告によると，1946年（昭和21年）度には京大泌尿器患者総数992名中淋疾患者数は235例でその百分率は23.7%，1947年（昭和22年）には1,199名中297例即ち26.5%と，泌尿器科全患者の1/4が淋疾であった。以降この比率は減少の傾向を示し，1948年には泌尿器科患者総数1,070名中115例，10.7%，1949年には992名中87例，8.8%となつてゐる。さらに1952年（昭和27年）には3.9%と減じ，1958年には外来患者総数2,378名中淋疾患者は15例で0.6%，1959年には2,554名中11例で0.4%と激減を示し，今や我々の教室においては急性尿道淋は比較的稀にみる疾患となるにいたつた（図3）これはペニシリンをはじめ多くの抗生剤の普及に従つて，大学病院を訪れる急性淋疾患者が激減したためと考えられる。

このような淋疾の減少に反して，非淋性および淋後性

図3 淋疾の対全外来患者数比



尿道炎の増加は Harkness, 北村・徳永, 篠田および教室では新谷が記載しているが, 我々もその傾向をみとめた。10年間における本症は686例で, 同年間における淋疾382例の1.8倍に相当する。

淋後尿道狭窄は417例であつて, その年度別変動は

比較的僅小である。

外来尿路性器結核症

外来尿路結核および性器結核を表4に示す。教室における尿路結核患者の統計としては多田によ

図4 上部および下部尿石症の年度別変動

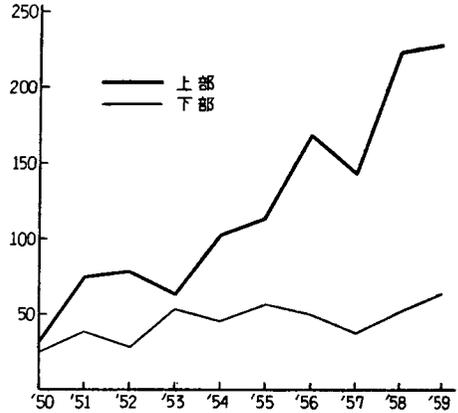


表4 外来・尿路性器結核

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
左腎膀胱結核	58	67	61	55	53	43	34	32	28	19	450
右腎膀胱結核	48	50	43	43	44	36	36	25	29	29	383
両腎膀胱結核	22	19	11	17	24	10	23	34	32	19	211
腎膀胱結核			6								6
左腎結核	6	5	6	13	9	5	7	4	10	17	82
右腎結核	6	3	7	14	5	8	5	7	8	9	72
両腎結核			1							12	13
残腎結核		10	5	6	7			20	12	37	97
腎結核の疑	7	2	18	16	19	30	25	31	25	25	198
結核腎剝後単腎	35	7	52	18	42	78	92	91	132	126	673
結核腎部分切除後						3	2	3	2	3	13
膀胱結核	20	34	30	21	9					4	118
膀胱結核の疑				12		3		3			18
結核性萎縮膀胱	5	9	13		7	8	2	25	12	10	91
結核性萎縮膀胱術後		1							2	3	6
結核性尿管狭窄		3		2					5		10
結核性尿道狭窄		3	1	9	12	12	4	5	7	7	60
陰莖結核		1						3	3	1	8

左副睪丸結核	27	37	21	36	31	15	24	19	14	14	238
右副睪丸結核	21	27	17	21	25	35	24	15	18	17	220
両副睪丸結核	20	20	30	24	18	23	9	15	12	10	181
副睪丸結核の疑		1	6	7	6	11	9	10	4	4	58
副睪丸結核術後	2	9	19	11	13	28	36	47	43	54	262
前立腺結核	16	12	31	22	30	35	38	26	35	39	284
前立腺結核の疑		1	1		1	1	2	3	2	1	12
精囊結核	1	1	3	1	2	1	2	1	3	4	19
精囊結核の疑										1	1
精囊結核術後		1						1	1	1	4
精系結核						1	1	1		2	5
睪丸結核			1								1
計	294	323	383	348	357	386	375	421	439	469	3,795

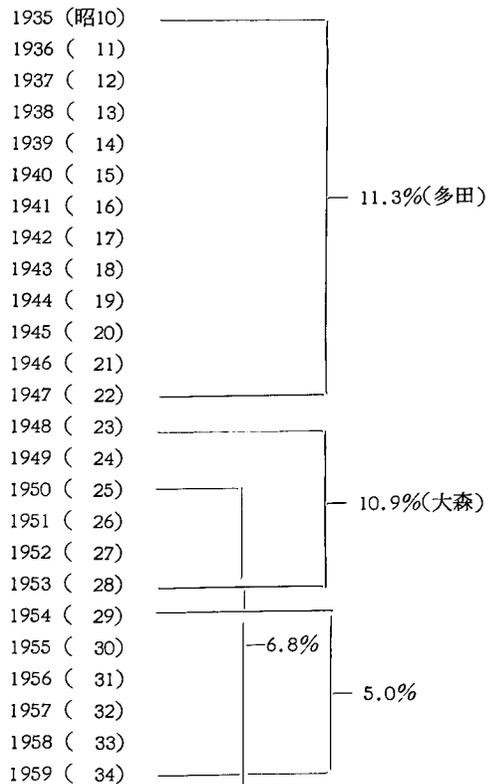
る1935年（昭和10年）より1947年（昭和22年）にいたる13年間のものと、これに次ぐ大森による1948年（昭和23年）より1953年（昭和28年）にいたる報告がある。多田の報告によるとその13年間の尿路結核症患者数は1,398例で、同期間の外来患者総数12,284例の11.3%に相当する。大森のその後の6年間の統計によると、その比率は10.9%と記載されている。我々の最近10年間の統計によると外来患者総数19,222例中尿路結核症は1,314例を算するので、この比率は6.8%となる。さらに我々の統計のはじめの4年は大森の研究と対象が重複しているために、この期間を除外して最近6年間の患者に限定すると、外来患者総数13,239例中尿路結核症は656例であるからその比率は5.0%となり、多田、大森のそれに比してはほぼ1/2となっている。しかし多田の統計によると、その年間平均患者数は107.6例であるのに対し、最近10年間の年間平均患者数は131.4例となっているので、実数においては増加しているが、外来総数の増加がさらに激しいために比率は低下しているわけである（表5）

性器結核の中では副睪丸結核は10年間に639例であるが、前半5年間には375例、後半5年間には264例となっていて、減少の傾向を有している。

外来尿路結石症

教室における1915年より1954年にいたる40年間の尿路結石症の統計的観察については、さきに稲田・後藤・酒徳が泌尿器科紀要に報告した通りであつて、特に上部尿石が逐年増加の傾向にあるが、我々の最近10年

表5 尿路結核の全外来患者に対する比率



間の統計によると、ますますその度が急速になるのを知った。これを図示すると図4となる。即ち下部尿石症の増加よりも上部尿石症の増加の方が急激でその差は年々著明になつている。

表6 外来・尿路結石症

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
左 腎 石	6	19	10	11	17	27	36	24	28	17	195
右 腎 石	8	11	18	18	23	24	31	31	50	43	257
両 腎 石	2		4		5	5	9	5	9	11	50
左 尿 管 石	5	25	22	19	34	21	47	43	75	93	384
右 尿 管 石	10	16	19	12	16	25	32	29	46	58	263
両 尿 管 石			1	1	1		1	3		3	10
同側腎尿管石			3		2	9	7	4	4	7	36
対側腎尿管石		3		2	4	2	4	4	7	2	28
両腎単側尿管石		1	1				1	1	2	3	9
単側腎両尿管石									1	1	2
両側腎尿管石									1		1
上 部 尿 石 計	31	75	78	63	102	113	168	144	223	238	1,235
上部尿石の疑	4	3	14	14	9	37	19	24	44	54	222
上部尿石術後		1	4	2	2	22	32	37	49	63	212
膀 胱 石	25	35	24	42	35	39	40	30	26	39	335
尿 道 石		2	4	7	7	10	8	3	13	7	61
前 立 腺 石		1		4	3	7	2	4	12	18	51
下 部 尿 石 計	25	38	28	53	45	56	50	37	51	64	447
膀胱石の疑										1	1
膀胱石術後						5	2	4	3	2	16
膀胱陰嚢石						1					1
回腸膀胱石										1	1
尿道石術後										1	1
尿道憩室石術後						1					1
前立腺石術後										1	1
尿石自然排出		1	6	3	4	14	25	25	35	30	143
尿石自然排出の疑		1	2		4				2	32	41
計	60	119	132	135	166	249	296	271	407	487	2,322

外来尿路性器腫瘍

表7に示す様に、我々の領域で最も多いものは前立腺肥大症の530例である。次いで膀胱腫瘍および乳頭

腫の448例である。第3位は前立腺腫瘍118例、第4位は腎腫瘍93例、第5位尿道腫瘍52例、第6位睪丸腫瘍33例、第7位陰茎腫瘍20例、第8位尿管腫瘍17例、第9

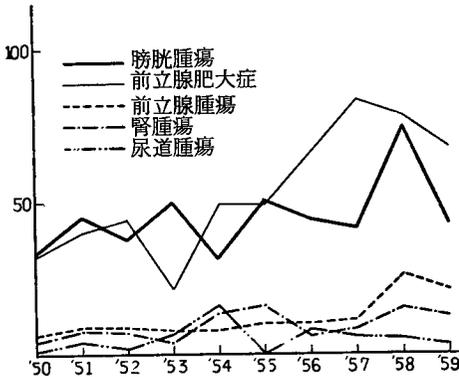
表7 外来・尿路性器腫瘍

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
腎 腫 瘍	4	8	7	4	13	16	6	8	15	12	93
腎腫瘍の疑		1	8	4	11	7	8	7	10	5	61
腎腫瘍術後				1	2	3	4	5	2	8	25
腎被膜腫瘍						1					1
尿管腫瘍	1	3				1	1	4	4	3	17
尿管腫瘍の疑										3	3
尿管腫瘍術後										1	1
膀胱乳頭腫	9	15	11	20	12	15	14	11	11	5	123
膀胱腫瘍	24	30	27	30	19	35	30	30	63	37	325
膀胱腫瘍の疑		1	5	4	1	2	4	1	2	5	25
膀胱腫瘍術後						1	8	15	17	29	70
尿管腫瘍						1		2	3	2	8
尿道腫瘍	1	4	2	7	16		8	6	5	3	52
尿道腫瘍術後					1	2	1		1		5
陰茎腫瘍	1	1		4	3	1	1	2	4	3	20
陰茎腫瘍の疑									1		1
陰茎腫瘍術後			1		1	3				3	8
腹腔内腫瘍	1			1		6	7	7	8	2	32
後腹膜腔腫瘍	1			1	4			2	2	4	14
副腎腫瘍					1	1	2		2	2	8
副腎腫瘍の疑				1				4	5	4	14
睪丸腫瘍		1	1	2	3	2	3	4	10	7	33
睪丸腫瘍の疑			1				1	1		1	4
睪丸腫瘍術後						1		4	4	2	11
副睪丸腫瘍						1				1	2
精管腫瘍			1				1	1		1	4
精管腫瘍の疑			1								1
前立腺肥大症	32	40	44	22	49	49	66	83	78	67	530
前立腺肥大症の疑				2		3	1	2	8	2	18
前立腺肥大症術後						3	4	2		9	18
前立腺腫瘍	6	9	9	8	8	10	10	11	26	21	118
前立腺腫瘍の疑			5		7				8	9	29
前立腺腫瘍術後						1				2	3
前立腺腫瘍除睪術後						3	3	7	6	1	20
そ の 他			2	2	2	19	13	20		27	85
計	80	113	125	113	153	187	196	239	295	281	1,782

位後腹膜腔腫瘍14例, 第10位副腎腫瘍および尿管腫瘍の各8例となつている。

以上の第1位から第5位のを年次別に表示すると図5の如くなる。即ち各種瘍とも一応増加を示すが、特に前立腺肥大症と前立腺癌がその傾向が大である。

図5 主要腫瘍の変動



外来尿路性器奇形, 發育異常

表8に示す如く, この疾患群に属するもので最も多いものは稲田教授の発見命名による膀胱三角部異常症であつて, その総数は1,240例に達し, 各年度においてはほぼ一定の数字を示している。次いで腎下垂症の593例, 包茎の528例があるが, これらは逐年増加の傾向の傾向を有する。

その他のもので特に増加を示しているものは停留睪丸, 馬蹄鉄腎, 多発性嚢胞腎, 尿道下裂等である。

外来外傷, 異物

外傷は近来交通, 工業の発達等によつて増加することは勿論であるが, 我々の病院はその性質上新鮮な外傷は比較的少なく, 外傷後の尿道狭窄は著明に増加している。外傷の総数は141例である。

異物は総数29例であるが, 膀胱異物の23例が大部分を占めている。

外来その他の疾患

外来におけるその他の上部尿路疾患は表10に示すごとくである。この領域で最も多いものは水腎症の531例で, 第2位は腎出血の350例, 第3位は腎炎の268例, 第4位は腎盂炎の261例で, この4疾患で過半数を占めている。

その他の下部尿路疾患では, 諸種膀胱炎が3,384例で大部分をしめている。その他のものとしては夜尿症

251例, 神経因性膀胱114例, 膀胱白斑症90例等がある(表11)

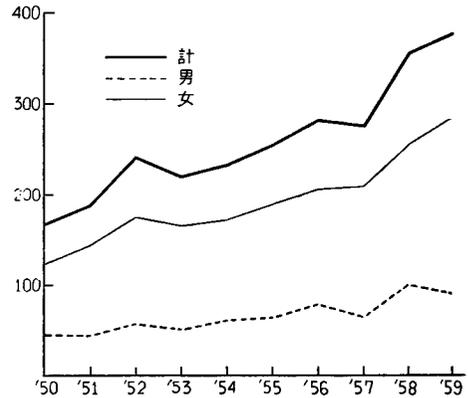
その他の性器疾患を表12に示した。この中の第1位のは龟头包皮皮炎で221例, 以下第2位男子不妊症の170例, 第3位陰嚢水腫の154例, 第4位性的神経症132例, 第5位尖形コンジローム123例等である。

その他のものには泌尿器科的に異常をみとめないもの2,751例, その他内・外・婦人科的疾患の数を表13に示した。

入院患者

最近10年間における入院患者数は表14の如くであり, 図6にはその年度別変化を示した。即ち1950年度

図6 入院患者数



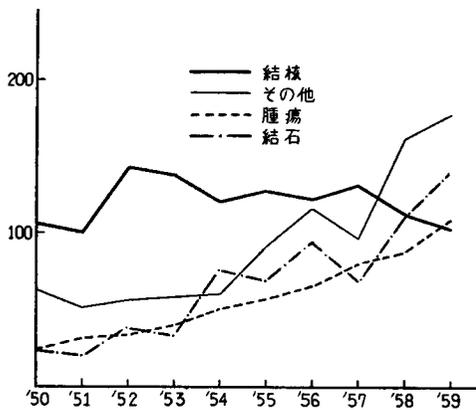
の入院患者数は168例であつたものが逐年増加し, 1959年度には375例となつた。公定ベット数が32床に限定されている現在では, この数字は限界に近いものと考えられる。10年間の入院患者総数は2,572例(男子1,921例, 女子651例)で外来患者総数19,222例の13.4%に相当する。この比率の年度別変動は僅少である。

次に入院患者を3大疾患即ち結核, 結石, 腫瘍およびその他の疾患と各疾患群に4大別すると表15の如くなる。これによると尿路結核症は年度別の消長は少ないが, 尿路結石症と腫瘍およびその他の疾患は著明な増加をしめしている。これを図示すると図7の如くなる。

尿路結核症患者を臓器別に表示すると, 表16となるが年度別の変動は著明ではない。尿路結石症においては, 外来のそれと同様に上部のもの増加が著しい(表17) 腫瘍ではどの部位におけるものも一般に増加しているのを認める(表18) その他の入院患者の疾患として多いものは表19の如く水腎症150例で, 以下尿道狭窄76例, 腎出血59例, 膀胱炎49例, 膿腎症45例, 膀胱三角部異常症40例, 腎下垂39例, 停留睪丸39

尿道狭窄			1				2	5	7	6	5	26
外尿道口缺損						1						1
尿道直腸瘻											1	1
尿道直腸瘻術後											1	1
包茎	9	26	35	25	39	58	99	65	92	80		528
嚙頓包茎			1	1	4	3	5	7	3	4		28
包皮切除術後										6	6	12
倭小陰茎	4			1	1	9	8	3	3			29
停留睪丸			2		2	11	7	15	21	20		78
停留睪丸固定術後										2	2	4
精管缺損						1	2		1			4
精管閉鎖						1	2					3
半陰陽						2						2
脊椎破裂	1			1	1	2	1	1	3			10
鎖肛										1		1
腹筋缺損										1		1
計	139	193	253	218	228	332	374	374	474	419		3,004

図7 入院主要疾患



例, 陰囊水腫31例, 重複腎27例等がある。

手術

教室における10年間の手術総数は3,348件であるが、1950年度には総数126件のものが漸次増加し、1959年度においては586件に達した。

各年度を通じて最も多い手術は腎別除術であつて、その総数は738に達し全手術数の22.0%を占める。上部尿路切石術(腎・腎盂・尿管計)がこれに次ぎ384(11.5%)となつてゐる。下部尿路(前立腺を含む)の手術としては前立腺別除術125(3.7%), 尿道形成

術106(3.2%), 膀胱高位切開術54(1.6%), 膀胱全別除術51(1.5%), 膀胱部分切除術43(1.3%)が主なものである。性器手術では副睪丸別除術の340(10.2%)が最も多く、次いで包皮切除術291(8.7%), 精管切除術159(4.7%), 除睪術133(4.0%)等の小手術が主なものである。

図9には主要手術即ち腎別除術, 上部尿路切石術, 前立腺別除術, 膀胱全および部分別除術, 副睪丸別除術の年次別変動をしめす。腎別除術は変動の比較的少なく、副睪丸別除術は次第に減少の傾向をしめし、これに反して前立腺・膀胱の手術は増加の傾向にある。

特筆すべきことは上部尿路切石術の増加である。

泌尿器科的検査法, 処置

膀胱鏡検査法15,364件が最も重要なものである。最近においては種々の生検法の数の増加をみる様になつた(表21)

泌尿器科 X線検査法

我々の領域における本検査法は極めて重要であつて、我が教室からは最近この方面に関する研究業績が相次いで発表せられた。X線検査の回数も年を追つて急増し、1950年においては撮影総回数は520であつたものが、1959年にはその10倍の5,171に達した。主な

図8 手術総数

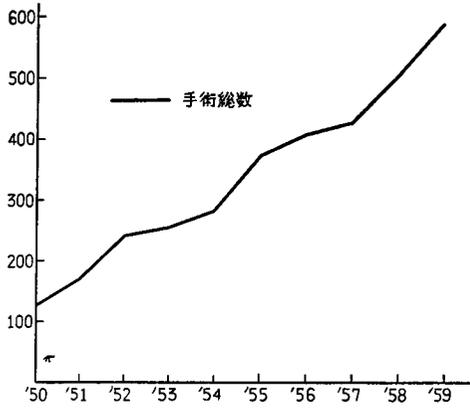


図9 主要手術数

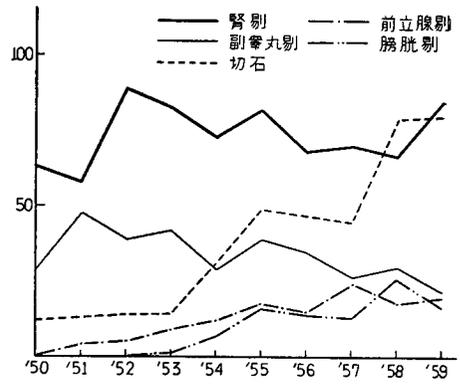


表9 外来・外傷・異物

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
腎 外 傷	1			1	2	2		1	4	5	16
膀 胱 外 傷				1			1	1			3
尿 道 外 傷	1		5		1	5	2	2		2	18
外傷後尿道狭窄	2	4	4	4	1	5	8	16	14	16	74
陰 茎 外 傷			1	1	2	4	4	2			14
陰 囊 外 傷		1				1		3	1	1	7
陰 門 外 傷									1		1
睪 丸 破 裂						1					1
外傷性萎縮膀胱						1					1
外傷後陰萎							4	1			5
瘢痕性陰茎彎曲						1					1
尿 管 異 物									1		1
膀 胱 異 物	4	3	1		2	2	1	2	5	3	23
尿 道 異 物	2	1							1	1	5
計	10	9	11	7	8	22	20	28	27	28	170

表10 外来・その他の上部尿路疾患

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
水 腎 症	8	22	36	46	45	72	82	61	85	74	531
腎 炎	4	8	24	12	25	35	23	44	50	43	268
腎 盂 炎	14	15	19	11	22	29	23	42	44	42	261
腎 盂 腎 炎		10	4	2	2	4	5	5	10	12	54

ネ	フ	ロ	ー	ゼ		4	3	2	1	4			6	4	24
膿		腎		症	2		4	5	2	14	10	3	8	10	57
腎		出		血	23	38	35	29	35	31	56	30	40	33	350
海		綿		腎					1				3	2	6
急	性	腎	不	全					1				2	1	4
腎	周	囲	膿	瘍	1	2		1			1	2	2		9
G o l d b l a t t				腎								1			1
腎		梗		塞									1		1
腎	周	囲		炎		3							1		4
水	尿	管		症			2					1			3
尿	管	狭		窄	1		3	3	3	16	13	5	9	3	56
尿	管	屈		曲	2	3	5	5	4				3	1	23
尿	管			炎				1		3	13	20	14	14	65
尿	管	腔		瘻		3				3	1		1	3	11
尿	管	直	腸	瘻									1		1
乳	糜	(血)		尿	1		1	2	2	7	4	2	7	1	27
そ	の			他	6	2	29	4	4	57	62	69	67	97	397

表11 外来・その他の下部尿路疾患

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
急性膀胱炎	130	140	95	158	140	146	106	123	131	117	1,286
慢性膀胱炎	24	25	76	13	10	74	91	117	123	164	717
膀胱三角部炎	39	84	148	124	97	96	125	119	118	64	1,014
膀胱頸部炎	1	2	13	31	13	23	25	57	46	52	263
出血性膀胱炎		10		17			18	14	27	18	104
膀胱炎計	194	261	332	343	260	339	365	430	445	415	3,384
神経因性膀胱		2	2	5	19	12	17	17	23	17	114
夜尿症	13	16	19	28	42	26	32	30	25	22	251
膀胱神経症				4		11	11	30	8	22	86
尿失禁	2	1	2	7	7	4		8	8	6	45
膀胱腔瘻	5	4	5	4	2	2	2	4	2	6	36
膀胱白斑症		9	12	13	18	9	8	4	9	8	90
膀胱頸部疾患		6	12	6	4	15	10	8	10	13	84
膀胱腸瘻			2							1	3
膀胱膺瘻							1	1		1	3
膀胱周囲膿瘍								1	3		4

尿道炎	42					3						45
尿道出血			1								5	6
尿道周囲膿瘍	2	3	1	4	2	1	4	8	6	8		39
尿道瘻	1	3	1	4	1	1	5	4	4	11		35
尿道狭窄			28		36	5					13	82
尿道脱				1	1		3		1	1		7
尿道浸潤						1						1
その他		6	23	6	4	24	20	11	15	35		144

表12 外来・その他の性器疾患

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
急性睪丸炎			3	4	5	3	3	1	1		20
睪丸萎小				2		10	15	20	21	12	80
男子不妊症					1	8	18	41	40	53	170
無精子症	2		1		1	5	5	7	8	12	41
乏精子症	1			1		7	5	4	8	15	41
陰囊水腫	8	7	20	11	15	15	16	15	23	24	154
精系静脈瘤	4	2	2		2	4	1	5	5	4	29
精液瘤	4	1	3	1	3	8	5	10	2	7	44
無精液症						2			1		3
精系水腫						2	2	1		2	7
精系軸捻転						1		2	2		5
Klinefelter症候群								3			3
急性副睪丸炎	1		9	4	26	9	9	17	9	28	112
性欲性副睪丸炎			1	1	1	2		1	6	3	15
性的神経症	24	14	10	4	4	17	19	24	12	4	132
早漏	4						4	3	3	2	16
夢精								1		1	2
陰萎	2		1	1		16	11	8	8	9	56
精子侵襲						1					1
精管炎								1		3	4
慢性副睪丸炎									7		7
類宦官症								6	7	6	19
Fröhlich症候群								3	2	1	6
性的早熟症									1		1
仮性半陰陽									1		1

真性半陰陽					1								1
Cushing症候群										1	2		3
小人症										1	1		2
前立腺炎	2	4	5	12	11	4	18	7	5	13			81
前立腺膿瘍	1	5	1	6	5	3	3	4	10	5			46
精囊炎	1			4		5	8	3	8	5			34
血精液症			1		3						6		10
前立腺漏			1					1	1				3
精液漏	1	2	1		2				1				7
亀頭包皮炎	7	16	22	15	14	16	28	31	35	37			221
尖形コンジローム	3	7	10	12	11	23	18	23	15	1			123
陰部疱疹	1	1		1	3	5	11	6	11	6			45
鼠径リンパ腺炎	2							3	2	4			11
鼠径ヘルニア	2					6	5	3	4	8			28
持続勃起症									2				2
陰茎硬結症								3		2			5
恥骨骨炎									1	2			3
その他	9	18	8	10	12	24	21	8	28	15			153

表13 外来・その他

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
泌尿器科的正常	137	208	239	253	316	291	395	354	239	319	2,751
内科的疾患	3	21	19	9	11	42	45	47	21	34	252
外科的疾患	3	9	13	12	13	31	15	14	17	12	139
整形外科的疾患	1	1	9	3	5		10	7	12	3	51
婦人科的疾患	5	65	50	4	5	27	14	12	25	18	225
皮膚科的疾患	8	6	9	13	8	11	28	13	11	20	127
精神科的疾患			4	5	1	13	11	14	17	14	79
耳鼻科的疾患	2							2	1		5
小児科的疾患									2	1	3
眼科的疾患			1			1				1	3
その他	18	3	60	78	96	12	8	12	3	12	297

表14 入院患者総数

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
男 子	123	143	175	168	171	189	205	208	254	285	1,921
女 子	45	44	58	51	60	63	76	65	99	90	651
計	168	187	233	219	231	252	281	273	353	375	2,572
対外来患者総数比	14.7%	12.3%	14.5%	12.8%	13.0%	12.7%	13.2%	12.1%	14.9%	14.7%	13.4%

表15 入院主要疾患数

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
結 核	106 (95)	100 (92)	143 (123)	138 (113)	120 (91)	127 (94)	122 (101)	131 (93)	112 (85)	102 (72)	1,201 (959)
結 石	23 (21)	20 (19)	38 (35)	33 (28)	76 (52)	69 (62)	94 (80)	68 (63)	111 (92)	140 (109)	672 (561)
腫 瘍	24 (23)	31 (28)	34 (33)	39 (37)	50 (49)	57 (56)	65 (61)	80 (74)	87 (81)	109 (87)	576 (529)
そ の 他	62 (32)	51 (37)	56 (42)	58 (37)	60 (39)	91 (78)	116 (100)	96 (62)	161 (115)	176 (103)	927 (645)

上段は疾患数， 下段（ ）内は患者数

表16 入院・尿路性器結核

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
腎（膀胱）結核	72	59	89	76	63	60	53	60	54	57	643
腎（膀胱）結核腎剝後	3		9	5	7	8	10	8	16	6	72
結核性尿管狭窄								4			4
結核性萎縮膀胱			2		3	7	5	11	7	4	39
結核性尿道狭窄						2	2	2			6
副睪丸結核	27	41	40	38	37	38	39	32	18	21	341
副睪丸結核術後						1	7	5	14		27
前立腺結核	4		3	9	6	10	5	5	1	12	55
精囊結核					4	1	1	2	2	1	11
精系結核								1		1	2
陰茎結核								1			1
計	106	100	143	138	120	127	122	131	112	102	1,201

表17 入院・尿路結石

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
腎 結 石	9	7	15	12	28	31	47	21	44	55	269
腎 結 石 術 後			1				3	3	2	5	14
尿 管 結 石	8	10	19	10	21	27	36	33	47	65	276
尿 管 結 石 術 後							2	3	3	4	12
膀 胱 結 石	5	1	2	8	22	10	5	4	6	4	67
膀 胱 結 石 術 後								3	1		4
尿 道 結 石	1	2	1	1	4		1		3		13
前 立 腺 結 石				2	1	1		1	5	6	16
前 立 腺 結 石 術 後										1	1
計	23	20	38	33	76	69	94	68	111	140	672

表18 入院・腫瘍

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
腎 腫 瘍		4	9	6	8	8	5	6	7	11	64
腎 腫 瘍 術 後					1	1	3	1	1	4	11
腎 被 膜 腫 瘍						1					1
尿 管 腫 瘍	2		1	1	2		1	3	1	2	13
尿 管 腫 瘍 術 後										1	1
膀 胱 腫 瘍	7	11	9	13	13	21	19	17	35	27	172
膀 胱 腫 瘍 術 後						1	3	4		7	15
尿 道 腫 瘍						1	3	2	2	3	11
尿 道 腫 瘍 術 後						1		3			4
睪 丸 腫 瘍		1	2	2	2	2	3	5	3	4	24
睪 丸 腫 瘍 術 後								1	1	2	4
副 睪 丸 腫 瘍										1	1
精 管 腫 瘍								1			1
前 立 腺 腫 瘍	4	5		4	7	2	4	7	10	15	58
前 立 腺 腫 瘍 術 後								1	1		2
前 立 腺 肥 大 症	11	10	13	12	16	19	20	27	17	29	174
前 立 腺 肥 大 症 術 後							2	1	1		4
陰 莖 腫 瘍				1					2	1	4
副 腎 腫 瘍							2	1	2	1	6
後 腹 膜 腔 腫 瘍					1				4	1	6
計	24	31	34	39	50	57	65	80	87	109	576

表19 入院・その他の疾患

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
水 腎 症	5	5	9	6	10	13	24	17	29	32	150
尿 道 狭 窄	3	5	4	12	7	13	10	2	10	10	76
腎 出 血	4	4	7	2	5	4	12	5	7	9	59
膀 胱 炎	9	6	1	5	3	6	5	6	3	5	49
膿 腎 症		5	5	1	1	12	6	4	4	7	45
膀 胱 三 角 部 異 常 症	17	3	5	1	1	1	3	3	5	1	40
腎 下 垂		2	2	1	3	5	2	7	9	8	39
停 留 睪 丸	1	1		4	1	4	2	2	13	11	39
陰 囊 水 瘤	2		4	2	1	1	2	5	7	7	31
重 複 腎	1	1	1	3	6	4	2	1	7	1	27
尿 道 瘻	1	2	1	2	1		3	1		13	24
神 經 因 性 膀 胱	1	1	1	2	2	3	2	6	2	3	23
尿 道 周 囲 膿 瘍	1	1		1	2		2	3	4	9	23
そ の 他	17	15	14	16	17	27	39	32	61	59	297

表20 手術

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
腎 剔 除 術	63	58	89	83	73	82	68	70	67	85	738
腎 部 分 切 除 術					4	1	3	2	1	1	12
半 腎 切 除 術							1	1	3	1	6
腎 固 定 術		2	2		2	1	1	9	12	9	38
腎 瘻 造 設 術	3	2	5	6	7	3	3	16	8	12	65
腎 切 石 術	8	2	1	5	8	15	13	6	12	6	76
腎 盂 切 石 術		1	1		7	6	7	9	18	22	71
腎 腎 盂 切 石 術							1	2	1		4
腎 尿 管 切 石 術						5	1				6
囊 胞 腎 穿 刺 術			3		2		3	1	3	8	20
馬 蹄 鉄 腎 橋 切 断 術								1		1	2
腎 尿 管 全 剔 除 術		1						1	2	2	6
腎 尿 管 全 剔 除 術 兼 膀 胱 部 分 切 除 術								1	1		2
腎 尿 管 全 剔 除 術 兼 子 宮 全 剔 除 術										1	1
腎 盂 尿 管 形 成 術							2	1		5	8
孤 在 性 腎 囊 胞 切 除 術									1		1

腎周囲膿瘍切開術			1	1	1		1		1		5
試験的腎切開術							4	5	4	5	18
人工腎透折術									2	1	3
尿管剔除術				1			1	4	1	1	8
尿管切石術	4	10	12	9	16	23	25	28	48	52	227
尿管皮膚瘻造設術			1	1	4	13	22	15	15	10	81
尿管結腸吻合術			2	1	7	4		1		3	18
尿管膀胱新吻合術						3	1		4	5	13
尿管尿管吻合術										3	3
尿管膻瘻閉鎖術										1	1
尿管形成術			1	1	3	4	1	3	5	2	20
尿管剔除術兼膀胱部分切除術									2		2
副腎剔除術							2		1	1	4
後腹膜腔腫瘍剔除術								1			1
試験的後腹膜腔切開術		1	2		2				5	2	12
試験的開腹術						1	4	3	2	1	11
大動脈血栓剔除術										1	1
脾嚢腫剔除術										1	1
膀胱全剔除術				1	6	9	9	6	12	8	51
膀胱部分切除術					1	7	5	7	14	9	43
膀胱高位切開術	2	4	9	14	10	9	5	1			54
膀胱瘻造設術		3	1	1	3		1	6	7	12	34
膀胱切石術	2		4	4	3	5	4	4	4	4	34
膀胱憩室切除術			1				2				3
膀胱形成術							1		1	3	5
回腸膀胱形成術								2	3	3	8
回腸膀胱吻合術										2	2
膀胱尿道全剔除術										1	1
膀胱膻瘻閉鎖術									1	6	7
膀胱後腫瘍剔除術										1	1
尿管末端嚢胞切除術									1		1
膀胱前立腺組織内RI注入術									1	3	4
高位切開尿管口切開術								3			3
膀胱神経剝離術							1				1
尿失禁手術							1				1
前立腺全剔除術				1				1	2	5	9
前立腺剔除術	4		5	9	12	18	15	24	18	20	125

前立腺切開術						1					1
前立腺切石術									1		1
T U R（前立腺）										13	13
尿道腫瘍剔除術					2					1	3
外尿道切開術	1	3	3	3	1						11
尿道形成術		2	11	14	7	8	17	2	20	25	106
尿道脱切除術				1			3				4
尿道直腸瘻閉鎖術				2							2
尿道周囲膿瘍切開術						3		2			5
外尿道口切開術						2					2
尿道憩室切除術									1		1
陰茎形成術			1		2		1	2	5	4	15
陰茎切断術			1	2	1				2	3	9
包皮切除術	1	9	10	13	26	40	47	44	53	48	291
除 暈 術	2	4	15	14	15	16	10	18	21	18	133
睪丸部分切除術					1	3	1				5
睪丸固定術	1	1		2		3	1	1	8	11	28
停留睪丸剔除術								1		1	2
副睪丸剔除術	29	48	39	42	29	39	35	27	30	22	340
陰囊水瘤剔除術	1		4	1	1	2	2	3	6	7	27
精液瘤剔除術							1	1		1	3
睪丸精管吻合術										2	2
副睪丸精管吻合術									3	2	5
精索腫瘍剔除術								1			1
精管形成術						1					1
精管切除術		5		7	4	19	37	44	10	33	159
精囊剔除術					2			1	3		6
後腹膜リンパ腺清掃術								1	2	1	4
卵巣剔除術				1		1	1				3
人工肛門造設術						1					1
鼠径ヘルニア形成術			2		1	1	1		2	2	9
腸管切除術						2		1	2	1	6
虫垂切除術						1		3	4	3	11
直腹筋形成術									1		1
そ の 他	9	10	12	11	17	15	40	38	44	69	265
計	126	170	238	251	280	367	405	424	501	586	3,348

表21 泌尿器科の検査法・処置

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
膀胱鏡検査法	1,162	1,517	1,740	1,545	1,478	1,518	1,673	1,576	1,672	1,483	15,364
尿管カテーテル法	320	398	599	524	566	769	916	890	1,035	894	6,911
蹄係カテーテル法					2	14	19	15	5		55
経尿道的電気焼灼	58	151	149	108	146	170	104	85	89	51	1,111
膀胱碎石術	8	8	7	9	9	10	10	11	9	16	97
膀胱結石(異物)摘出術		5	4	11	7	21	33	20	36	25	162
尿道鏡検査法	3	19	17	22	4	7	3	3	5	4	87
ブジー挿入法	67	103	199	285	229	388	327	281	335	418	2,632
尿道結石摘出術						3	1	2	1	2	9
腎盂穿刺法						8	14	19	4		45
膀胱穿刺法						1	1	3			5
陰嚢水腫穿刺法			1	2	1	15	10	16	10	16	71
腎生検法									8	10	18
膀胱生検法			7					7	28	14	49
睪丸生検法						24	54	39	48	46	211
前立腺生検法							14	14	65	88	181

表22 泌尿器科のX線検査法

年 度	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	計
単純撮影法	124	166	333	483	815	1,195	1,513	1,558	2,251	2,498	10,936
逆行性腎盂撮影法	271	316	496	585	707	789	951	955	1,195	1,028	7,293
排泄性腎盂撮影法	70	83	104	137	177	245	291	394	716	1,004	3,221
経腰的腎盂撮影法							15	18	4		37
尿管撮影法	3	4	5	20	7	24	54	41	37	15	210
気腎法	1	1	6			1					9
後腹膜腔気体撮影法				47	76	40	60	42	31	37	333
膀胱撮影法	5	42	34	80	101	86	75	96	124	100	743
尿道撮影法	42	80	142	209	219	268	293	320	318	396	2,287
精嚢精管撮影法	3		3	22	57	45	69	59	63	50	371
腹部大動脈撮影法				4	50	28	35	26	35	23	201
静脈撮影法					4	5	5	4		3	21
腎実質撮影法					6	5		4	1	9	25
瘻孔撮法影	1	4	8	2	4	7	4	9	11	7	57
その他			3				22		3	6	35
計	520	696	1,134	1,589	2,223	2,760	3,365	3,529	4,792	5,171	25,779

ものは単純撮影の10,936, 造影撮影では逆行性腎盂撮影7,293, 排泄性腎盂撮影3,221, 尿道撮影2,287等がある（表22）

本論文の要旨は1960年5月7日京都大学楽友会館にて行われた第8回日本泌尿器科学会関西地方会稲田教授就任10週年記念学会の席上で発表した。

総括ならびに結語

稲田教授の就任10周年にちなんで、我々京大泌尿器科における1950年より1959年にいたる10年間の患者数、疾患数、手術数、検査数等を集計して表示した。

外来患者総数は19,222例、入院患者総数は2,572例、手術数は3,348回等であつて、これらのものはいづれも逐年増加の傾向が著しい。

文 献

- 1) 稲田他：泌尿紀要，2：227，昭31.
- 2) 稲田他：泌尿紀要，3：349，昭32.
- 3) 稲田他：泌尿紀要，4：298，昭33.
- 4) 稲田他：泌尿紀要，5：192，昭34.
- 5) 新谷：泌尿紀要，1：45，昭30.
- 6) 新谷：泌尿紀要，3：555，昭32.
- 7) 多田：泌尿紀要，1：1，昭30.
- 8) 大森：泌尿紀要，5：293，昭34.
- 9) 稲田・後藤・酒徳：泌尿紀要，2：117，昭31.